

新年御挨拶

循環産業を通じた社会貢献・危機管理に万全の体制整備

あけましておめでとうございます。
会員の皆様には、良き新年をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。平素から皆様方には、協会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の広がり、私たちの健康はもとより、社会生活や経済活動に大きな影響をもたらしており、その克服に向けて、様々な取組が進められてきました。

今もなお、完全な収束の道筋が見えない中ではありますが、感染拡大の防止と経済活動推進を両立するため、引き続き着実な行動が求められていると考えておりますので、皆様におかれましても、挑戦的な中にも安定的な事業継続を図られますようお願いいたします。

そのような中、廃棄物の処理業界は、エッセンシャルワーカーとして、社会基盤を支える重要性が再認識され、特に、医療系廃棄物等の適正処理により感染防止対策の一翼を担い、廃棄物処理の根本的な目的である公衆衛生の向上に大きく寄与してきました。

また、このような社会情勢を契機として、危機管理対策やデジタル技術の導入等が大きく進みつつあります。私たちの

持続可能な循環型社会の構築 廃棄物処理の安全・安心の確保

明けましておめでとうございます。皆様健やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症については、ワクチンの接種が進んではいるものの、変異株によるブレイクスルー感染の懸念など、予断を許さない状況が続いております。そのような中、廃棄物処理に従事されている皆様におかれましては、エッセンシャルワーカーとして、感染症の予防と安全の確保、そして健康に十分に留意していただいた上で、事業の継続に引き続きご尽力いただきますようお願いいたします。

さて、令和4年4月には「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」の施行が予定され、製品設計から廃棄物処理に至るまでプラスチックのライフサイクル全体で資源循環の取組を強化することとされました。

また、国においては「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、2030年度までに温室効果ガスの46%削減を目指す

業界といたしましても、社会の要請を機敏に捉え、その流れに乗って私たち自身を変革し、循環産業を通じて社会に貢献する役割を担っていきたくと考えております。

特に、危機管理に関しては、昨年は本県では大きな災害はなかったものの、全国的には、大雨等による大規模災害が発生しており、東南海トラフ大地震の発生などのリスクに備える重要性が高まっています。当協会は、引き続き、三重県、各市町、会員との連携により、万が一に備えた体制の整備に努めてまいります。

さらには、排出事業者と処理業者が廃棄物処理法の趣旨に基づきそれぞれの責任を果たして産業廃棄物の適正処理と3Rの推進を図ることはもとより、労働安全衛生への取組やSDGsに掲げる17の目標を念頭に置いた事業運営に取り組んでいただくことに期待しております。

当協会といたしましても、引き続き、三重県行政と連携を密にし、会員の皆様と共に産業廃棄物の適正処理に向けた取組を一層進めてまいりますので、今後とも皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。



一般社団法人
三重県産業廃棄物協会
会長 井上 吉一



三重県環境生活部
廃棄物対策局
局長 増田 行信

とともに、さらに上積みし50%の高みに向け挑戦を続けるという新たな方針が示されました。「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」や「地域脱炭素ロードマップ」などにおいても、資源循環関連産業の脱炭素への取組強化が求められており、皆様への期待がこれまで以上に高まっています。

本県においても、令和3年3月に策定しました「三重県循環型社会形成推進計画」において、社会全体の「3R+R」に向けた動きを加速させるため、循環関連産業を振興し、事業者と連携した取組を進めることとしています。また、地域の資源を持続可能なかたちで活用する地域循環共生圏の創出に向けて取り組むこととしています。貴協会におかれましても県と共にこれらの取組の推進にご協力をお願いします。

最後になりましたが、貴協会と廃棄物処理に携わる皆様の益々の御発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

井上協会長と井村屋が環境大臣表彰受賞



井上吉一氏（表彰状とともに）



井村屋グループ株式会社（同社HPより）

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰は、廃棄物の発生量の抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）の適切な推進に顕著な功績があった個人、企業、団体に贈られる栄誉ある賞です。

令和3年度の表彰においては、産業廃棄物関係事業功労者として当協会会長の井上吉一氏、3R活動優良企業として当協会会員企業の井村屋グループ株式会社と、当協会に所属する2名が受賞するという快挙を成しました。

井上吉一氏は、当協会の現会長であり、これまでも協会役員として三重県における適正処理の推進及び産業廃棄物業界の発展に尽くされる一方、大栄環境グループの役員として国内の廃棄物処理体制の整備に邁進してきたことが評価されたものです。また、井村屋グループ(株)は、「エコロジカルはエコノミカル」の方針のもと、持続的な社会の構築に向けて食品リサイクルループの形成やカーボンニュートラルに向けた取組などを進め、CSRの実践に努めてきたことが評価されたものです。

今回の受賞にあたり、井上吉一氏よりご感想をお寄せいただきましたので紹介いたします。

この度、令和3年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰を受賞させて頂き身に余る光栄で御座います。思えば縁あって1985年6月からこの業界に携わることになり、早36年が経ちました。入社した当初は現場業務に携わり、重機の運転が上手く出来ないで昼ご飯も食わずに練習していたのを昨日のこのように思い出します。後に営業に配属され主に工場の飛び込み営業をやりました。その当時は会社の中に未だ産業廃棄物を専門に扱う部署がなくて営業に行くとその会社の部長や課長を相手に商談をするような時代であり色々な事を逆に学ばせて頂き、そのことが後の開発業務に随分と生かす事が出来たのではないかと思います。

そして、1994年11月に三重中央開発(株)に異動となり今迄の知識と経験を活かし毎年のように設備を立ち上げていき今日に至っております。その間、三重県産業廃棄物協会では副会長を長らく務めさせて頂き、2019年6月からは会長として業界発展の為、日々精励恪勤させて頂いております。今後もこの受賞に恥じないよう循環型社会の形成に向け業務に励んでまいります。

協会設立30周年記念式典を6月に開催予定

一般社団法人三重県産業廃棄物協会は、平成3年11月27日に会員数150名で設立し、その後各種事業を実施するとともに会員相互の連携を深め、令和3年には設立30周年を迎え、皆様のご協力をいただき会員数も約410社余に拡大してまいりました。

このことから、当初、令和3年6月に設立30周年の記念式典の開催を予定していたところですが、新型コロナウイルス感染症対策の関係から延期としたところでした。

このような中、新型コロナウイルス感染症への対応が一定の水準に達することを前提に、令和4年6月3日（金）に予定している第11回通常総会の日にあわせて、設立30周年記念式典を開催する方向で調整を進めています。

会員の皆さまには、4月中旬頃を目途に、改めてご案内をさせていただきますので、ご承知お祈りいたします。



平成28年の25周年記念式典の様子